

はじめに

日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育協会（現日本国際教育支援協会）が1984年に開始しました。開始当初の受験者数は全世界で7,000人ほどでしたが、2008年の受験者数は全世界で約56万人にのぼり、世界最大規模の日本語の試験となっています。

近年、日本語能力試験の受験者は、大学で日本語を学ぶ学生に加えて、仕事で日本語を必要とする社会人、日本で生活するために日本語を必要とする人、学校教育の一環として日本語を学んでいる高校生や中学生など、多岐にわたっています。受験の目的も実力の測定に加え、就職、昇給・昇格のためと、変化が見られるようになりました。

試験開始から20年以上の間に、応用言語学、日本語教育学、テスト理論の発展があり、また、試験結果のデータも十分に蓄積されてきました。試験に関する要望や提言も出されました。

これらをふまえ、国際交流基金と日本国際教育支援協会は、2005年に「日本語能力試験 改善に関する検討会」を設置し、以来多くの専門家の協力を得て、この度、2010年に新しい「日本語能力試験」を実施することとなりました。

実施に先立ち、改定の内容をガイドブックとしてまとめました。本ガイドブックとは別に、『新しい「日本語能力試験」ガイドブック 概要版』と『新しい「日本語能力試験」問題例集』もありますので、そちらもあわせてご利用ください。

新しい「日本語能力試験」が、受験者をはじめ、関係者の皆様にとって、より一層役立つ試験となれば幸いです。

2009年7月

独立行政法人 国際交流基金

財団法人 日本国際教育支援協会